

Efektivitas Model Pembelajaran *Project Stimulus Response Creative* Dalam Meningkatkan Kemampuan Menulis Bahasa Jepang

(Penelitian Eksperimen Murni Pada Siswa Kelas XI SMAN 1 Bandung Tahun Ajaran 2016/2017)

Yasinta Hermaniar
1305653

ABSTRAK

Dalam mempelajari bahasa Jepang secara lengkap ada empat keterampilan yang harus dimiliki yaitu kemampuan menyimak, kemampuan berbicara, kemampuan membaca, dan kemampuan menulis. Menulis merupakan kemampuan sangat penting dalam mempelajari bahasa Jepang, namun sulit bagi siswa untuk meuangkan ide yang dimiliki kedalam sebuah tulisan khususnya bahasa Jepang karena selain harus memiliki ide untuk menulis siswa perlu memahami unsur bahasanya yakni struktur pola ungkapan, kosakata, dan hurufnya. Oleh karena itu, diperlukan sebuah model pembelajaran yang dapat mengatasi kesulitan siswa dalam pembelajaran menulis bahasa Jepang. Penelitian ini memiliki tujuan untuk mengetahui model *Project Stimulus Response Creative* dalam meningkatkan kemampuan menulis bahasa Jepang. Metode yang digunakan dalam penelitian ini adalah metode eksperimen murni dengan desain *Pretest-Posttest Control Group Design*. Instrumen penelitian ini adalah tes dan angket. Sampel penelitian ini adalah siswa kelas XI SMA Negeri 1 Bandung yang berjumlah 30 orang. Setelah dilakukannya analisis data tes, nilai rata-rata yang diperoleh pada kelas eksperimen mengalami peningkatan, sedangkan pada kelas kontrol mengalami sedikit peningkatan. Selain itu, dilihat dari hasil *post-test* diperoleh nilai *t hitung* lebih besar dari *t tabel*, maka hipotesis kerja dalam penelitian ini diterima dengan kata lain model pembelajaran ini terbukti efektif karena terdapat perbedaan yang signifikan terhadap keterampilan menulis bahasa Jepang siswa setelah diberikannya perlakuan dengan menggunakan model *Project Stimulus Response Creative*. Hal ini juga diperkuat dengan hasil analisis data angket yang menyatakan bahwa model pembelajaran *Project Stimulus Response Creative* ini efektif dan membantu meningkatkan kemampuan menulis bahasa Jepang.

Kata kunci : Efektivitas, Model Pembelajaran, *Project Stimulus Response Creative*, Kemampuan Menulis, Bahasa Jepang

Effectiveness of Learning Model of Project Stimulus Response Creative in the Ability to Write Japanese Language

(True Experimental Studies of XI Students of Senior High School 1 Bandung, Academic Years 2016/2017)

**Yasinta Hermaniar
1305653**

ABSTRACT

In studying Japanese language there are four skills that we must have listening, speaking, reading and writing. In addition to understand language better it is also important to master the grammar, vocabulary, alphabet and so forth. This research has a purpose to know the ability to write Japanese language of student before and after using the model of learning project stimulus creative response and students response to the learning of writing Japanese language. This study used Pretest-Posttest Control Group Design method. The research instrument was a test and questionnaire. Sampel of observation are XI students of senior high school 1 Bandung, amount to 30 people. The data result showed that experiment group has been increased in every lesson, but control group slightly improved. Trough the posttest result t count is more than t tabel, so hypotheses work on this research. Wich means this method is effective because there is significant differences about to write Japanese language between the group that used model of project stimulus response creative and the group that did not used this model. This is also reinforced with the result of questionnaire analysis that showed most of the students said this model is effective and interesting to increase writing Japanese language.

Keywords : Effectiveness , Learning Model, Creative Response Stimulus Project, the Ability to Write, Japanese Language

日本語の書く能力向上させるための *Project Stimulus Response Creative* 法の
使用
(2016/2017 年度バンドン第 1 国立高校学校の 2 年生を対する
実験方法研究)

ヤシント．ヘルマニアル
1305653

要旨

完全な日本語を習うために、四つの技能があり、聞き取り技能、話す能、読む技能、書く技能である。その日本語技能ができるように、文法構造と文字能力と言葉能力などを習うことも必要である。この研究は「日本語の書くの向上を向上させるための *Project Stimulus Response Creative* 法の使用」というテーマを持っている。この研究の目的は生徒達が *Project Stimulus Response Creative* 法で学習前と学習後の理解能力を知得る。そして、生徒達はこの学習に対してどんな反応が表わすのかを研究すると思っている。この研究には実験方法を使用する。実験のデザイン *Pretest-Posttest Control Group Design* というものである。研究に使用方法はテストとアンケートである。研究対象者は 30 人のバンドン第 1 国立高校学校の 2 年生である。データを分析してから、結果は実験前の平均値は 73.67 点であり、実験後は 95.33 点であった。t 得点は 8.52 であり、(db= 29) t 得点 $8.52 > t$ 表(5%= 2.04)、(1%= 2.76)ということが分かった。t 得点 t 表よりもっとたかいので、 H_k が受けられた。つまり、*Project Stimulus Response Creative* 方法は書く能力ためをあげるということが効果がある。アンケートの分析したによると、*Project Stimulus Response Creative* 法で日本語の書く能力の向上できると効果があるということが分かった。

キーワード：使用、書く能力、 *Project Stimulus Response Creative*、方法、日本語

日本語の書く能力を向上させるための *Project Stimulus Response Creative*
法の使用
(2016/2017 年度バンドン第 1 国立高校学校の 2 年生を対する
実験方法研究)

ヤシнта・ヘルマニアル
1305653

A. はじめに

日本語を習うために、四つの技能に分けられ、聞き取り技能、話す技能、読む技能、書く技能である。学習者にとって、その四つの中、書く技能はもっと難しいことだと言われる。Amanda (2013, hlm. 2) によると、ナティブスピーカーにとって書く能力も難しいことだと言われる。バンドン第 1 国立高校学校の 2 年生で 2017 年 2 月 6 日と 13 日の観察結果に基づき、文を教える時に多くの学生が文を書くことは難しということが分かった。その問題を解決するために、効果的な方法が必要である。それは「*Project Stimulus Response Creative* 法」の使用である。このモデルは日本語の書くを簡単できるようにする。だから、日本語の書くことに対する「*Project Stimulus Response Creative* 法」の効果について研究する。

B. 研究の問題提起

Project Stimulus Response Creative 法を使用した後、実験グループの日本語の書く能力を知るためである。*Project Stimulus Response Creative* 法を使用した後、実験グループ印象を知るためである。

C. 研究の目的

本研究の目的は次のようなである。

1. *Project Stimulus Response Creative* 法を使用した後、実験グループの日本語の s 書く能力を知るためである。

2. *Project Stimulus Response Creative* 法を使用せず、コントロールグループの書く能力を知るためである。
3. 実験グループとコントロールグループ間に知識差を知るためである。
4. *Project Stimulus Response Creative* 法を使用した後、実験グループ印象を知るためである。

D. 研究の方法

本研究は実験方法を使用する。実験グループとコントロールグループがある。研究の対象者は 2016/2017 年度バンドン第 1 国立高校学校の 2 年生にである。本研究で使用されるデザイン研究は *Pretest-Posttest Control Group Design* である。(Sugiyono, 2014, hlm. 113)によると、そのデザインの形は以下のようなである。

本研究の対象者は全員 30 名である。実験グループのサンプル人は 15 名であり、コントロールグループのサンプル人は 15 名である。データを得るために、研究機器はテストとアンケートである。テストは 2 回行った。それは予備テスト(*pre-test*)とポストテスト(*post-test*)である。実験する前に予備(*pre-test*)を行い、実験した後ポストテスト(*post-test*)を行った。そして、学習者の実験グループにポストテスト(*post-test*)をした後、アンケートを集めた。

本研究の手順は以下のようなである。

1. 初期段階、対象者の事態はどうであるかを知るためである、それにプレテストとポストテストとアンケートを作りました。
2. 実現には実験グループとコントロールグループにプレテストを行った。実験グループで *Project Stimulus Response Creative* 法の実験を行った。また一方で、コントロールグループで従来方法の実験を行った。両グループの対象したにポストテストとアンケートを答えてもらった。

3. 最終段階にはデータの結果は分析をした、また結論を得た。

E. 研究の結果

1. テストの分析

テストの分析は次の公式を使用する：

分析	プレテスト		ポストテスト	
	実験グループ	管制グループ	実験グループ	管制グループ
Mean	73,67	72,33	95,33	76
Standar Deviasi	4,99	7,72	5,62	6,38
Standar Error	1,33	2,06	1,50	1,71
<i>SEM_{xy}</i>	2,45		2,27	
t 得点	0,55		2,27	

表 1 によると、データを分析した結果、実験グループのプレテストの平均点は 73,67 点であり、管制グループのプレテストの平均点は 72,33 点であった。統計分析した結果、t 得点は 0,55 であり、(db=29) t 得点 $0,55 < t$ 表(5%=2,04)と(1%=2,76)という分かった。t 得点は t 表よりもっと低いので、 H_0 が受けられなかった。

また一方で、実験グループのプのポストテストの平均点は 95,33 点であり、管制グループのプのポストテストの平均点は 76 点であった。統計分析した結果、t 得点は **2,27** であり、(db=29) t 得点 $2,27 > t$ 表(5%=2,04)と(1%=2,76)という分かった。t 得点は t 表よりもっと高いので、 H_0 が受けられた。つまり、*Project Stimulus Response Creative* 法は日本語の書く能力の向上を向上させるために効果があると分かった。

研究に得られたから、たくさん利点があるということが分かった。*Project Stimulus Response Creative* 法を使用した後、学習者の書く能力は向上できると分かった。そして、*Project Stimulus Response Creative* 法は協力を養成できると分かった。

2. アンケートのデータの分析

アンケートの表明の目的は日本語の書く能力を向上させるための *Project Stimulus Response Creative* 法の使用について、学習者の印象を知るためである。学習者は学習に「*Project Stimulus Response Creative* 法」の使うことで日本語の書くが面白く、動機づけ分かった。そして、「*Project Stimulus Response Creative* 法」の使うことで日本語の書くことは時間を効果的する。

それで、方法学習として「*Project Stimulus Response Creative* 法」は日本語の書く能力の向上を向上させるために効果があると分かった。

F. 結論と今後の課題

データを分析に結果から、実験グループの学習者は日本語の書く能力の向上するために効果があると分かった。実験のグループのポストテストの平均の結果はコントロールグループのポストテストの平均点の結果より高い、実験グループの学習者はコントロールグループ学習者より日本語の書く能力の向上を向上させるために効果があると分かった。

アンケートの分析に結果から、かなり多く学習者は、「*Project Stimulus Response Creative*」の方法使用した後、日本語の書くがわかりやすい、面白く、動機づけができるということが分かった。それに学習者は、「*Project Stimulus Response Creative*」の方法で日本語の書くが楽しいと考えられる。

G. 参考文献

- Amanda, R. (2013). *Efektivitas Model Proyek Respons Kreatif dalam Meningkatkan Keterampilan Menulis Karangan Bahasa Jepang (Penelitian Kuasi Eksperimen Terhadap Mahasiswa Tingkat II Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang FPBS UPI 2013/2014)*. (Skripsi). Universitas Pendidikan Indonesia, Bandung: Tidak diterbitkan.
- Sugiyono. (2014). *Metode Penelitian Pendidikan Pendekatan Kuantitatif, Kualitatif, dan R&D*. Bandung: Alfabeta